様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３１ 年　 ４ 月 ２３ 日現在

機関番号：２０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６４６３４１６

研究課題名（和文）先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of the model to support group life of preschoolers with congenital heart disease

研究代表者
田畑　久江（Tabata, Hisae）

札幌医科大学・保健医療学部・講師

研究者番号：６０３２３４０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では3つの研究課題を明らかにした。1つ目は、幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児への関わりである。先天性心疾患をもつ幼児が集団生活の中で特別にならないように探りながら子どもたちに関わっていること、そして、親の希望に沿い速やかに対応するために園と親が協力体制を作っていることが明らかとなった。2つ目は、本邦における「子どもの主体性」の概念について、属性と先行要件、帰結を抽出して明らかにした。3つ目は、熟練看護師の先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援を明らかにし、デルファイ法により意見を集約することで支援モデルを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
先天性心疾患をもつ子どもが成長し、自分の病気を自分のこととして管理していくためには、子どもが親から離れて集団生活を送る体験は重要である。特に初めて集団生活を送る幼稚園や保育園での体験は貴重であるが、この時期に焦点を当てた研究は国内外で見当たらなかった。
今回、幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわりを明らかにし、熟練看護師が先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるために行っている支援を基に支援モデルを開発した。今後、先天性心疾患をもつ幼児が集団生活を送るために、親と園、医療者の連携を進めていく際に活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：We clarified three research subjects. The first was the care of preschoolers with congenital heart disease by kindergarten and nursery teachers. The study showed that kindergarten and nursery teachers involved other pupils and monitored the condition of children with congenital heart disease to avoid special treatment of the children in the group setting. In the second study, we analyzed the concept of "children's independence" in Japan. In the third study, we clarified the care to support the group life of children with congenital heart disease of expert nurses, and developed "the model to support group life of preschoolers with congenital heart disease" by Delphi method.

研究分野：小児看護

キーワード：先天性心疾患　幼児　集団生活　看護　主体性　支援モデル

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、先天性心疾患をもつ子どもを取り巻く医療が飛躍的に進歩し生命予後が改善されている[1)]。その一方で、先天性心疾患をもちながら思春期、成人期を迎える人が特有の問題を抱えていることが明らかとなっている[2)]。先天性心疾患をもつ子どもが病気を自分のことと捉え、周囲のサポートを得ながら自分の健康や病気を管理していくようになるためには、幼い頃から主体性が育まれる必要があり、そのためには親以外の大人や友達と関わる幼児期の集団生活の経験は重要であると考えた。しかし、病状がある程度安定し、受診間隔が広がるこの時期を対象とした研究は国内外ともに少ない。

２．研究の目的

本研究の目的は先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための看護支援モデルを開発することである。そのために以下の 3 つの研究課題を実施した。

３．研究の方法

研究課題 1：幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわり

過去 5 年以内に先天性心疾患をもつ幼児の保育・教育経験がある幼稚園教諭・保育士より、インタビューにてその経験について語ってもらった。インタビュー内容から逐語録を作成し、サブカテゴリー・カテゴリー化した。また、本研究は、研究者所属大学の倫理委員会の承認を得て行った。

研究課題 2：「子どもの主体性」の概念分析

看護学、教育学、心理学、発達学の 75 文献を対象として、Rodgers の概念分析方法[3)] を用いて「子どもの主体性」の概念分析を行った。属性と先行要件、帰結をコーディングシートに抽出し、サブカテゴリー・カテゴリー化を行った。

研究課題 3：熟練看護師の先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援

本研究はコンセンサスメソッドの 1 つであるデルファイ法[4)] を用いた。初めに、専門看護師や認定看護師、あるいは小児病棟や外来で 5 年以上の勤務経験がある熟練看護師を対象に、自記式質問紙法を用い実際の支援方法を自由記述で得た。その内容を質的記述的分析にて、コード化、サブカテゴリー・カテゴリー化し、サブカテゴリーを項目とした支援モデル案を作成した。この項目に対し、「当てはまる」から「当てはまらない」の 4 段階で回答してもらい、「当てはまる」「まあまあ当てはまる」の割合が 7 割を超える項目を採用することとした。さらに項目ごとに意見を自由に記述してもらった。これを 2 度繰り返し、対象者の意見を集約し支援モデルの精錬を行った。また、本研究は、研究者所属大学の倫理委員会の承認を得て行った。

４．研究成果

研究課題 1：幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわり

⑴対象者の概要

複数の自治体の幼稚園と保育園 427 施設に対象者を募り、251 施設（58.8%）より返答があったが、対象となる幼稚園教諭・保育士がいると返答したのは 10 施設（2.3%）であり、幼稚園教諭 7 名、保育士 4 名、合計 11 名の幼稚園教諭・保育士より研究参加の同意を得た。年齢は 20～50 歳代であり、幼稚園教諭・保育士の経験年数は 5～32 年であった。対象者がかかわったことのある先天性心疾患をもつ幼児は 1～3 名であった。

⑵幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわり（図 1）

インタビュー内容より、282 コード、33 サブカテゴリー、6 カテゴリー、そして 2 つの大カテゴリーが抽出された。2 つの大カテゴリーは、先天性心疾患をもつ幼児へのかかわりと他の園児へのかかわりに関する≪集団生活で特別にならない探りながらの幼児への対応≫と、先天性心疾患をもつ幼児の親へのかかわりを含む園の体制作りに関する≪親の希望に沿い速やかに対応するための園と親の協力体制≫であった。カテゴリーを【　】、サブカテゴリーを〈　〉とし、先天性心疾患をもつ幼児を幼児、他の園児を園児と記述する。

≪集団生活で特別にならない探りながらの幼児への対応≫は、幼児本人に対する【幼児の体調を探りながら対応】【幼児の気持ちへの配慮】【園児と

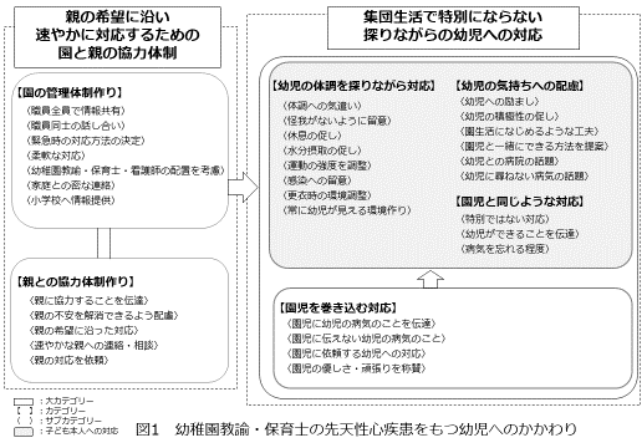

図1　幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわり

同じような対応】と、園児に対する【園児を巻き込む対応】の 4 つのカテゴリーより抽出された。また、≪親の希望に沿い速やかに対応するための園と親の協力体制≫は、【親との協力体制作り】【園の管理体制作り】の 2 つのカテゴリーより抽出された。医療機関と連絡をとった幼稚園教諭・保育士はいなかった。

幼稚園教諭・保育士は、先天性心疾患をもつ幼児の体調を把握するためには、本人の言葉や訴えのみに頼るわけにはいかなく、幼児の表情や顔色、活気などを探りながら体調を気にかけ、休息や水分摂取を促したり、運動の強度を調整したりという工夫を行っていた。同時に、先天性心疾患をもつ幼児が、可能な限り特別にならないように他の園児と一緒にできるような工夫を行っていた。幼稚園教諭・保育士が、親の希望に沿いながら協力体制を作っている現状が明らかとなった。医療機関の看護職としては、先天性心疾患をもつ幼児の受診時に入園に関する情報を得て、親子とどのような園生活を送りたいと考えているか、園との情報交換方法、困ったときの相談方法など話し合う機会を作れると良いと考える。そして、幼稚園教諭・保育士との連携方法については今後検討していく必要性が示唆された。

研究課題 2：「子どもの主体性」の概念分析

「子どもの主体性」の属性として 2 つのカテゴリー、先行要件として 2 つのカテゴリー、帰結として 3 つのカテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを【　】、サブカテゴリーを〈　〉と記述する（図 2）。

「子どもの主体性」は、子どもの【能動的な認知・情意・行動】であり、【段階的に発達】するという属性で説明された。また、それは子どもの主体性の基盤となる【子どもの発達・情意・体験】と、子どもの主体性に影響する【周囲の大人の働きかけ】を先行要件とし、【子どもの健康的な自我・発達】【子どもの前向きな情意】【子ども自身が対処・周囲に適応する力】という帰結につながり、先行要件、属性、帰結が循環しながら発達していくことが示唆された。

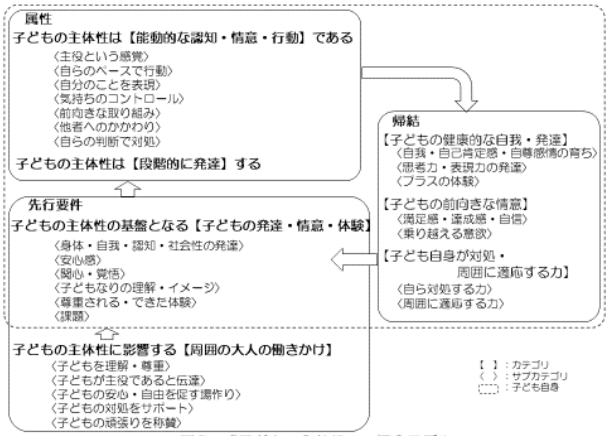

図2　「子どもの主体性」の概念モデル

病気をもつ子どもへの看護には、先行要件【周囲の大人の働きかけ】を参考にすることができ、属性と帰結は、個々の「子どもの主体性」を捉え評価する際に活用できると考えられる。

研究課題 3：熟練看護師の先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援

⑴対象者の概要

先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための実践について記述する質問紙を、全国の 245 施設に配布し 48 施設（19.6%）84 名の看護師より返送された。対象者の所属する施設は、大学病院、総合病院、小児専門病院、循環器専門病院、小児科クリニックであった。先天性心疾患をもつ子どもに関わった経験年数は、10 年未満が 45 名（53.5%）、10 年以上が 39 名（46.5%）であった。先天性心疾患をもつ幼児が就園する際に支援したことがあったのは 25 名（29.8%）、先天性心疾患をもつ幼児が幼稚園や保育園で集団生活を送ることに関連して支援したことがあったのは 19 名（22.6%）であった。

⑵熟練看護師の先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援

先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための実践に関する自由記述より、3 つのカテゴリーと 13 のサブカテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを【　】、サブカテゴリーを〈　〉と記述する。【先天性心疾患をもつ幼児が幼児なりに集団生活に対処できるよう働きかける】は、〈幼児より園での様子を聞く〉〈幼児に他の園児との過ごし方をアドバイスする〉〈幼児が園で運動制限・内服・感染予防ができるようアドバイスする〉〈幼児が集団生活に慣れる機会を作る〉より抽出された。【先天性心疾患をもつ幼児の家族を支える体制を作る】は、〈集団生活をイメージできるように家族の相談にのる〉〈就園先について家族の相談にのる〉〈他の園児への対応を家族と考える〉〈日常生活の注意点を家族に説明する〉〈集団生活の中での制限や注意事項、体調不良時の対応について家族に説明する〉より抽出された。【先天性心疾患をもつ幼児が集団生活を送れるように家族を通じて園・多職種と連携する】は、〈家族を通じて園に幼児の情報提供をする〉〈家族を通じて園ができるサポートを確認する〉〈園の先生・多職種とカンファレンスを行う〉〈集団生活の支援は外来で医師と相談しながら行う〉より抽出された。

このサブカテゴリーを項目とした質問紙に「当てはまる」「まあまあ当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の 4 段階で回答してもらったところ、全ての項目で「当てはまる」と「まあまあ当てはまる」の回答が 7 割以上であった。対象者が記述した項目についての意見を集約し、最終的に 2 つのカテゴリーと 13 のサブカテゴリーとなった。【先天性心疾患をもつ幼児が幼児なりに集団生活に対処できるよう働きかける】は、〈幼児から園での楽しいこと（遊び）や困っていることを聞く〉〈幼児に他の園児から同じ活動ができないことや手術の痕

などについて聞かれた時の答え方を提案する〉〈幼児が自分の症状を園の先生に伝えるなど自分でできることを一緒に考える〉〈幼児が園で運動制限・服用・感染予防ができるようわかりやすく必要性と方法を説明する〉〈長期入院などの際には幼児が他の子どもと関われる遊びなどの機会を作る〉で構成された。【先天性心疾患をもつ幼児が集団生活を送れるように園を含んだ多職種と連携する】は、〈集団生活をイメージできるように多職種で家族の相談にのる〉〈就園先について多職種と協力して家族の相談にのる〉〈他の園児への対応を多職種と協力して家族と考える〉〈集団生活の中での制限や注意事項、体調不良時の対応について多職種と協力して家族に説明する〉〈直接あるいは家族を通じて園に幼児の情報提供をする〉〈直接あるいは家族を通じて園ができるサポートを確認する〉〈園を含んだ多職種とカンファレンスを行う〉〈集団生活の支援は外来で多職種と相談しながら行う〉で構成された（表1）。

表1　先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための看護支援モデル

カテゴリー	サブカテゴリー
先天性心疾患をもつ幼児が幼児なりに集団生活に対処できるよう働きかける	幼児から園での楽しいこと（遊び）や困っていることを聞く
	幼児に他の園児から同じ活動ができないことや手術の痕などについて聞かれた時の答え方を提案する
	幼児が自分の症状を園の先生に伝えるなど自分でできることを一緒に考える
	幼児が園で運動制限・服用・感染予防ができるよう必要性と方法を説明する
	長期入院などの際には幼児が他の子どもと関われる遊びなどの機会を作る
先天性心疾患をもつ幼児が集団生活を送れるように園を含んだ多職種と連携する	集団生活をイメージできるように多職種で家族の相談にのる
	就園先について多職種と協力して家族の相談にのる
	他の園児への対応を多職種と協力して家族と考える
	集団生活の中での制限や注意事項、体調不良時の対応について多職種と協力して家族に説明する
	直接あるいは家族を通じて園に幼児の情報提供をする
	直接あるいは家族を通じて園ができるサポートを確認する
	園を含んだ多職種とカンファレンスを行う
	集団生活の支援は外来で多職種と相談しながら行う

先天性心疾患をもつ子どもとかかわっている熟練看護師の2～3割程度が、先天性心疾患をもつ幼児の就園時や集団生活を送ることに関連した支援をしたことがあった。支援内容は、幼児自身の対処する力に働きかけることや、園を含んだ多職種と連携しながら家族とともに幼児の集団生活を送るための環境を作るといったものであった。先天性心疾患をもつ幼児が集団生活を送る頃は、体調も比較的安定しているため医療機関からは遠ざかっている時期であるため、看護師の支援の経験も重ねにくい状況であると考えられる。この先天性心疾患をもつ幼児の集団生活を支えるための支援モデルは、様々な場で先天性心疾患をもつ幼児とかかわる看護師が、就園時や集団生活を送る幼児とその家族に向けてかかわっていく際に参考にできると考えられる。

文献

１）西基：わが国における先天性心疾患による死亡の疫学．北海道医療大学看護福祉学紀要 23：17-21，2016

２）丹羽浩一郎、水野芳子：成人先天性心疾患（ACHD）の移行に伴う問題点と対策. Nursing Today 26：45-50，2011

３）Rodgers,B.L.: Chapter 6 Concept analysis. An evolutionary view. Rodgers, B. L., Knafl, K. A.. Concept Development in Nursing 2nd ed. Philadelphia, Saunders, 2000, pp 77-102

４）Waltz, C. F., Strickland, O. L., Lentz, E. R.: 16 The Delphi technique. Measurement in nursing research. 4th ed. Phipadelphia, F.A.Davis, 2010, pp 311-317

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　2　件）

① H.Tabata : Care of Preschoolers with Congenital Heart Disease by Kindergarten and Nursery Teachers in Japan. Comprehensive Child and Adolescent Nursing. 査読有. 40(3). 144-156. doi:10.1080/24694193.2017.1307472. 2017.

②田畑久江：「子どもの主体性」の概念分析．日本小児看護学会誌．25（3）．47-54．2016．

〔学会発表〕（計　4　件）

①田畑久江：先天性心疾患をもつ子どもの主体性に関する熟練看護師の認識．日本小児看護学会第28回学術集会．名古屋．2018.7.

②W.Mizuguchi, T.Asari, H.Tabata, Y.Kuwabara, M.Konno, M.Takai, K.Mori: Survey on Natural Disaster Preparedness of Parents of Preschool Children Living in Hokkaido. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars. 香港. 2017.3.

③田畑久江：幼稚園教諭・保育士の先天性心疾患をもつ幼児へのかかわり．日本小児看護学会第25回学術集会．千葉．2015.7.

④ H.Tabata, M.Konno, M.Hasegawa, M.Toriya. : Concept Analysis of "Children's Independence". 18th East Asian Forum if Nursing Scholars. 台北. 2015.2.

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：今野　美紀

ローマ字氏名：Konno Miki

所属研究機関名：札幌医科大学

部局名：保健医療学部

職名：教授

研究者番号（8 桁）：00264531

研究分担者氏名：浅利　剛史

ローマ字氏名：Asari Tsuyoshi

所属研究機関名：札幌医科大学

部局名：保健医療学部

職名：講師

研究者番号（8 桁）：40586484

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。